

ドキュメンタリー映画

うんごと 死体の 復権

こいつらすぐえって尊敬しはじめてきた

探検家・医師
関野吉晴

監督：関野吉晴

出演：伊沢正名／高槻成紀／館野 鴻

プロデューサー：前田亜紀／大島 新 撮影：松井孝行／船木 光／前田亜紀 編集：斉藤淳一
音響効果：金田智子 整音：高木 創 監督補：船木 光 製作：ネツゲン／クリエイト21 配給：きろくびと
2024年 | 日本 | カラー | DCP | 106分 ©2024「うんごと死体の復権」製作委員会 unkotoshitai.com



今の何かは、次の何かの材料になる。そのために、壊す。立派に育った野菜を切り刻み、菌ですりつぶし、胃液で溶かす。食べることは破壊だ。心配ないぜ。うんこが、次の何かを作る。あとはまかせた。

がんばれ！うんこ！死体と共に！
——甲本ヒロト（ザ・クロマニヨンズ）

探検界のレジェンド・関野吉晴が初監督！ うんこと死体が地球を救う？ 価値観を覆す、鼻つまみ者たちを巡る いのちの循環の旅へ——

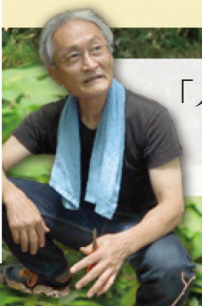
「グレートジャーニー」で知られる探検家で医師でもある関野吉晴はアマゾン奥地の狩猟採集民との暮らしを通して、自然とヒトとの関係について考え続けてきた。そして、2015年から『地球永住計画』というプロジェクトを始める。この地球で私たちが生き続けていくためにはどうしたらいいかを考える場だ。

関野はそこで3人の賢人に会う。3人の活動を通して、現代生活において不潔なものとするうんこ、無きモノにされがちな死体を見つめると、

そこには無数の生き物たちが織りなす、世の中の常識を覆す「持続可能な未来」のヒントが隠されていた。

初監督を務めた関野をプロデューサーとして支えるのは、『なぜ君は総理大臣になれないのか』や『国葬の日』などで近年注目のドキュメンタリー映画を制作するネツゲンの前田亜紀と大島新。これまで関野の出演作品を手がけた縁からタッグを組んだ。75歳の探検家4年をかけてあらたに挑んだ、いのちの循環をたどる“旅”は果たしてどんな結末に——。

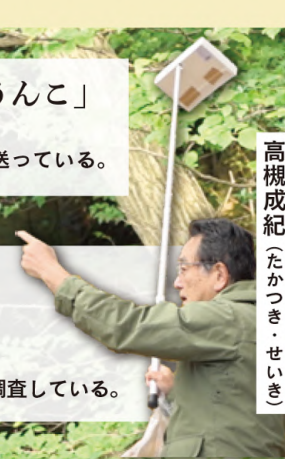
伊沢正名（いざわ・まさな）



「人間で作り出す最も価値あるもの、それはうんこ」

元はキノコなどの菌類を専門に撮る写真家。野糞をすることに頑なにこだわり、半世紀に渡る野糞人生を送っている。

高槻成紀（たかつき・せいき）



「糞は情報のカプセルだね。

情報を出すんですよ、尻から」

ウンコから生き物と自然のリンクを考察する生態学者。都市の野生動物が生態系の中でどうリンクしているかを調査している。

館野鴻（たての・ひろし）



「もうちょっと死ぬってことを
ポジティブに考えていいんじゃないか」

死体喰いの生き物たちを執拗に観察する絵本作家。徹底した観察と調査で、日陰者（虫）の知られざる命のドラマを描く。

人はものを食べる。人は食べものにもなる。いやそれどころか、人は食べものを自分のからだから生み出しつづける。人間世界で最も蔑まれてきたものにこそ、極上の美が宿る。その美に取り憑かれた人たちのあらいと
いつくしみの物語。

——藤原辰史（歴史研究者／京都大学准教授）

監督 関野吉晴（せきの・よしはる）



1949年生まれ。探検家・医師・武蔵野美術大学名誉教授。一橋大学在学中に探検部を創設し、1971年にアマゾン川全域を下る。以後南米への旅を重ね、現地でも役に立つと考え横浜市立大学医学部で学び、医師免許を取得。1993年南米最南端からアフリカの人類発祥の地まで動力を使わずに旅をする「グレートジャーニー」を始め、足掛け10年で踏破。その記録は、フジテレビのシリーズ特番として放送された。1999年植村直己冒険賞受賞。

うんこ
死体の
復権

監督：関野吉晴 出演：伊沢正名／高槻成紀／館野鴻 プロデューサー：前田亜紀／大島新
撮影：松井孝行／船木光／前田亜紀 編集：斉藤淳一 音響効果：金田智子 整音：高木創
製作：ネツゲン／クリエイト21 配給：きろくびと 2024年 | 日本 | DCP | 106分

unkotoshitai.com

@unkotoshitai @unkotoshitai



2024.8.3 土ロードショー！

全国共通特別鑑賞券1,400円発売中



ポレポレ東中野

03 3371 0088 pole2.co.jp
JR東中野駅西口改札北側出口より徒歩1分
都営大江戸線A1出口より徒歩1分